

「親子で見て・聞いて・楽しむ版画集一読み聞かせ」 2010年5月29日(土)14:00~16:00

語り手：志茂田景樹（直木賞作家、タレント、よい子に読み聞かせ隊・隊長）

詩画集出品作家：山口啓介（美術家、版画の色ーリトグラフpress実行委員）

渋谷和良（明星大学教授、美術家、版画の色ーリトグラフpress実行委員）



開催中の展覧会「メゾチントの冒險Ⅰ」の関連イベントとして、版画集の読み聞かせが開催されました。版画にもっと親しんでもらいたいと企画されたこのイベントは当館でも初めての試みです。語り手には読み聞かせで全国を行脚している志茂田景樹氏をお招きし、読み聞かせの合間には実物の作品を間近で見ることのできるイベントでした。その様子を紹介いたします。



「しま」（作：野見山暁治）、「たまねぎさくさく」（作：根岸一成）、「宝探し」（作：渋谷和良）、そして志茂田さん自身が作ったお話「ぽんちとちりん」を読み聞かせ。ゆっくりじっくりの時もあれば、テンポ良くリズミカルになったり、自由に変わる調子で作品に引き込まれていきます。「志茂田さんの声で語られる作品は深く心にしました」と参加者。3歳から大人まで幅広い年齢の方が志茂田さんの語りに聞き入りました。

地下会場には版画集の実物、原画を展示しました。印刷とは全くちがう、本物の版画の風合いに参加者のみなさんも興味深々でした。



「しま」（作：野見山暁治）の原画

版画集

上、「イタリア旅行」（作：山口啓介）
下、「宝探し」（作：渋谷和良）



渋谷氏は実際の石版（重さ50kg！？）を前にリトグラフ作品はどうやって作られるかを紹介。

山口氏の「志茂田さんはどうして読み聞かせを？」という質問に、これまでの思いを語ってくださった志茂田さんは最後に「お母さんお父さん、美術館に行く時はぜひお子さんを連れていて下さい。こどもの頃からたくさんるものを見て、聞いて、感じてもらいたい。そうすれば大きくなったときに自由な心でいられ、きっと世界が広がるでしょう。」と参加者に呼びかけました。2010.5.29 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

